

1 川合町の概要

川合町は、面積 34.5 km²、人口 1,848 名、世帯数 899 戸（平成 29 年 2 月 1 日現在）である。大田市のほぼ中央に位置し、三瓶山を源とする静間川と美郷町からの忍原川が合流する自然豊かな地にある。また、石見一宮物部神社をはじめ神社仏閣の多い、古くから拓けた町である。

町内には、川合保育園、川合小学校、大田市学校給食共同調理場、西日本農業研究センター等の教育研究関連施設のほか、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、ケアハウス、小規模多機能施設などの福祉施設がある。

2 事業の趣旨

川合町のまちづくりセンターの目標には、①安全なまちづくり②地域の防災支援③「ふれあう」「にぎわう」「つどう」まちづくり④学びあい⑤行政サービスの充実の五つを挙げ、重点事業として、①みまもり活動②地区防災活動の支援③文化祭④敬老会⑤川遊び大会⑥代官いもとコスモス祭り⑦地域ささえあい協議会の支援⑧研修事業の充実、に取り組んでいる。

川合町では、平成 16 年から、「みまもりたい」や青色回転灯パトロールの活動を実施するなど、子供や、高齢者の安全安心、防犯への取り組みを展開している。

町内では、過去に大きな水害が発生し、近年でもその危険性に脅かされることもたびたびである。平成 20 年には、川合町自主防災会協議会を結成し、自治会を中心にした自主防災会活動の支援や、町ぐるみの防災活動に取り組んできている。

このようななか、本事業を活用し、多くの

住民が地域の防災に関心を持つことで、自助・共助による防災のまちづくりに取り組みたいと考えた。その実現のため、地域を牽引するリーダーの育成を図るとともに、地域住民同士、また様々な団体や施設等をつなぐことにより、住民が主体となる、防災を中心としたまちづくり活動を推進することとした。

3 具体的な取り組み内容

川合まちづくりセンターでは、防災ミーティング（下の写真）を定期的開催し、年間を通じた事業計画を立て、次の事業を実施した。



(1) 住民の防災意識を高める取り組み （講習会等の実施）

ア 土のうづくり講習会



イ 防災（東日本震災の体験発表と火災想定避難訓練）についての研修会と非常食づくり



ウ 非常食づくり講習会（コンテスト）



(2) 各地区の防災リーダーの育成

- ア 川合町自主防災会協議会との連携（事業の共催により、町内から幅広い参加を得た）
- イ 地震避難訓練及び防犯教室（小学生を指導）
- ウ 防犯安全マップづくり（小学生を指導）



- エ 防災研修会の実施（広島市総合防災センター）

(3) 町内にある団体や施設との連携した防災訓練

- ア ケアハウスビラおおだの火災想定訓練の救出救護活動
- イ (福)清風園、(福)眺峰園の防災会議及び火災想定避難訓練への参加
- ウ 避難所における非常食づくり講習会

(4) 各種団体や施設との情報の共有

- ア 検討会議の実施
- イ 毎月発行の「たより」に活動記事を掲載
- ウ 文化祭への参加（消防団による放水訓練）

4 評価と成果

本事業の取り組みにより、町民の防災意識の高揚が図られ、川合町内の 16 自治会中に 12、2つの福祉施設と消防団で合計 15 の自主防災会の活動が活発になった。

この自主防災会を意欲的に牽引するリーダーが育成され、自治会ごとに、防災に向けた話し合いや炊き出し訓練の実施がなされるなど、地域毎での防災活動が進んでいる。

また、防災を通じて、地域住民と町内の各種団体、福祉施設等との「絆」が深められ、幅広い協力体制の構築ができつつある。

このような防災まちづくりの活動により、町内各自治会や各種団体、施設等が参加した防災訓練・防災イベント等が毎年開催されるようになり、自主的に参加する町民が増えたり、若い消防団員の確保が進むなど、明るい展望が開けている。

5 今後の課題と見通し

防災活動は各地域・各自治会等の実情や特性に応じて多様であることから、町内の自治会全てにおいて、自主防災会組織が設置されることが望ましく、「川合の防災まちづくり」の取り組みの継続が必要と考えている。

地域の繋がりを大切に、安心安全な、災害のない地域であることを願う。“小さくても良い！少しでも良い”日頃から心の隅に危機意識を持つよう今後も事業を実施することが必要である。

文責 川合まちづくりセンター
センター長 小林 公司

